

アジア文化研究所活動報告

(2002年1月—2002年12月)

1. 公開講演

1. 日本思想史特別公開授業・アジア文化研究所後援 2002. 4. 25
「韓日関係と相互認識—歴史と展望」河宇鳳（全北大学教授、近世・近代韓日関係史）
2. アジアンプロジェクト「変化する世界における日本外交関係」2002. 5. 15
後援：日本研究プログラム、アジア文化研究所、アジア研究プログラム
1) Earl A. Carr（ジャマイカ大使、日本／カリブ海諸国関係）
2) 谷口誠（早稲田大学現代中国総合研究所所長、日中関係）
3) Andrew Horvat（アジア財団日本代表）
3. 連続公開講座「アジアの多様性と共通性」
「インドネシア 多様な宗教」宮崎恒二（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授・所長）2002. 9. 30
「ベトナム 科学、儀礼、宗教」Shaun K. Malarney（ICU 国際関係学科準教授、アジア文化研究所所員）2002. 10. 7
「ビルマ（ミャンマー） アウンサンスーチーの思想」根本敬（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授）2002. 10. 21
「インド 若者意識—日本との比較から」千葉果弘（ICU 教育学研究科大学院教授、アジア文化研究所所員）2002. 10. 28
「韓国 家族観の変化」矢野百合子（東京女子大学・ICU 非常勤講師、アジア文化研究所準研究員）2002. 11. 11

2. アジア研究フォーラム

1. 「カール・ハウスホーファーと日本の地政学—第一次世界大戦後の日独関係におけるその影響力」
Christian W. Spang（ドイツ-日本研究所研究助手、アジア文化研究所準研究員、歴史学）2002. 1. 28
2. 「夢はアジアをかけめぐる—私のアジア遍歴」田坂興亜（ICU 教授、アジア文化研究所所員、化学）2002. 2. 18
3. 「中世日本の牙と爪—僧兵と侍」Mikael S. Adolphson（ハーバード大学助教授、日本史）2002. 4. 22
4. 「返還後の香港人のアイデンティティー」容應萸（亜細亜大学教授、アジア文化研究所研究員、国際関係論）2002. 5. 13
5. 「アメリカの歴史家と日本の教科書」James Matson（コロラド大学講師、社会学）2002. 6. 3
6. 「津軽から見る日本の歴史」Rosemary Gray Jeffcott（オーストラリア国立大学客員フェロー、アジア文化研究所研究員、日本史）2002. 9. 27
7. 「チェンマイの漆器」Krisana Charoenwong（パヤップ大学講師、アジア文化研究所研究員、歴史学）2002. 10. 7
8. 「フィッシャー対リックビーの異変—条約港日本の新聞、スキャンダル、風刺」Todd Munson（インディアナ大学博士課程、近代日本史）2002. 11. 18

3. ミニシンポジウム

1. 「交流空間の変容—中・近世海上東アジア—
於 ICU 2002. 2. 23
所長挨拶 古藤友子（ICU 教授）
「朝鮮後期の地図帳に見える日本図」 ケネス・ロビンソン（ICU 助教授）
「『日出る処』の銘木—海を渡る木材と日宋交流—」 藤田明良（天理大学助教授）
二胡と琴：演奏と解説 程農化（二胡演奏家・学習院大学非常勤講師）
 櫻田泰子（琴演奏家）
「近世琉球における漂着民の船隻・積荷の処置—日本と中国の狭間で—」
..... 渡辺美季（東京大学博士課程・日本学術振興会特別研究員）
「蝦夷地の『無事』—17世紀アイヌ社会のなかの和人—」 浪川健治（筑波大学助教授）

総括討論 司会：M. ウィリアム・スティール (ICU 教授)
小島康敬 (ICU 教授)

2. 「アジアの宇宙観」

於 ICU 2002. 12. 21
「生まれる宇宙と造られる宇宙—東西宇宙観の比較」
..... 村上陽一郎 (ICU 教授、科学史・科学哲学)
「インドの天文学と宇宙論」 矢野道雄 (京都産業大学教授、インド学・科学史)
「マンダラの宇宙観」 前田常作 (武蔵野美術大学理事長、洋画家)
舞踊「動く曼陀羅—黒川さんさ踊り、早池峰神楽」
..... 近藤洋子 (ICU 講師・アジア文化研究所所員、体育学)
質疑応答 司会：古藤友子 (ICU 教授・アジア文化研究所所長、中国語・東アジア思想史)

4. 日本アジア研究学会 (第 6 回)

於 上智大学市ヶ谷キャンパス 2002. 6. 22-23
共催：上智大学比較文化学科
(詳細は p.142 4. Asian Studies Conference Japan を参照のこと)

5. 出版物

1. 『アジア文化研究』28号 (2002年3月30日発行)

編者まえがき 古藤友子
論文
特集「言語と社会」—安積仰也・稲垣滋子両教授 退任記念
Farewell to ICU: A Few Reflections Azumi Koya
安積仰也教授 略年譜
漂流民の最初の出会いにおけるコミュニケーション行動 稲垣滋子
稲垣滋子教授 略年譜
首座都市論と過剰都市論の妥当性をめぐって—東南アジアの大都市研究のための視座—
..... 新津晃一
韓国語における統語的複合語—漢語の場合— 佐藤豊
Trends in Japanese First Names in the Twentieth Century: A Comparative Study Komori Yuri
褒めの返答に対する褒め提示側の印象度分析 鈴木理恵
矢内原忠雄の留学生活 福田秀一
The Character of Japan's Trade with Ming: A Price-Centered View Wakita Haruko
(Translated by and Ronald P. Toby Kanazawa Atsuko)
研究ノート
古代日本文学にあらわれた他界観—日本霊異記における「地獄」を中心に 安田夕希子
The Alphabet and Spelling in 'Cho Stephen Nolan
書評
増本伎共子『雅楽入門』 呉 国偉
執筆者紹介
研究所活動報告 (2001年1月—2001年12月)

2. 『アジア文化研究』別冊11号 (2002年9月30日発行)

特集「都市と平和」—魚住昌良・斯波義信両教授記念号
編者まえがき 古藤友子・高澤紀恵
第一部
比較都市史への歩み—後半生の回顧と出会い 魚住昌良
魚住昌良教授 略年譜と研究業績
清代台南府城の「会」、「境」と「郊」
—旧中国都市における民間の公共組織 斯波義信
斯波義信教授 略年譜と研究業績
Stadt und Bürgertum in der mittelalterlichen Geschichete Japans Uozumi Masayoshi

日欧比較史へのこころみ—中世都市の指導層—	魚住昌良
中世ヨーロッパ商人の出自	魚住昌良
第二部	
横井小楠における天の観念とキリスト教	源 了圓
<i>Yasegaman no setsu: On Fighting to the Bitter End</i>	Fukuzawa Yukichi
	(Translation and Notes by M. William Steele)
宋代地方官考課制度の基調	青木 敦
海澄県の生成過程—明末の地域意識—	小島 毅
上海に於ける輸出子口半税制規制の挫折	
—崇明島綿花買付体制の背後にある経済秩序理念—	本野英一
Chinese American Community Organizations: History and Perspective	Zeng Ying
肉食という近代—明治期日本における食肉軍事需要と肉食観の特徴—	真嶋亜有
後ウマイヤ朝期スペインにおける敵国人の保護	
—「アマーン」の理論と実際についての一試論—	安達かおり
習慣法文書をめぐる最近の研究動向—西欧中世における「権力と自由」—	斉藤綱子
都市防衛とゲマインデ	
—13世紀前半シュトラースブルクにおける市壁建設から—	江川由布子
ニュルンベルク市当局の再洗礼派理解と市の平和	早川朝子
Musica pacis et guerrae: 戦争と平和の音楽	
—皇帝カルロス5世の入市式にみる王権の音楽表象—	上尾信也
「チャーンゴー」研究のアポリア	戸谷 浩
論中国古代城市規制中的儒教文化影響	張冠增
研究ノート	
日本中世都市史研究をめぐるエッセイ	
—西洋日本学者の視点から—	Markus Rüttermann

6. 長清子アジア研究学術奨励金 (2002年3月 Friends of ICU 指定寄付)
 中村真之介 (社会科学科) 「日本と極東共和国・東アジア新秩序の探求」
 田中祐介 (比較文化研究科) 「大正教養主義の失墜」

7. 人事動向

1. 所員

2002. 3	稲垣滋子教授退任
2002. 3	宮永國子教授退任
2002. 3	大森元吉教授退任
2002. 3	田坂興亜教授退任
2002. 4	Suthy Prasartset 客員教授就任
2002. 4	佐藤豊準教授就任
2002. 4	黄仁相助教授就任
2002. 4	加藤恵津子助教授就任
2002. 11	Suthy Prasartset 客員教授退任

2. 顧問

2002. 4	葛西實教授就任
---------	---------

3. 客員所員

2002. 6	稲垣滋子教授就任
2002. 6	中村妙子教授就任

4. 研究員 (無給)

2002. 2	江川由布子 (トリーア大学、歴史学) (2003. 3 まで)
2002. 4	容應莢 (亜細亜大学、国際関係論) (2003. 3 まで)
2002. 6	Rosemary Gray Jeffcott (オーストラリア国立大学、歴史学) (2002. 11 まで)
2002. 9	Sharon Kinsella (エール大学、社会学) (2003. 3 まで)
2002. 10	Krisana Charoenwong (バヤップ大学、歴史学) (2002. 10 まで)

5. 準研究員（無給）
 - 2002. 4 矢野百合子（東京女子大学、韓国文化・比較文化）（2003. 3 まで）
 - 2002. 4 Jens Sagen（東京大学、歴史学）（2003. 3 まで）
 - 2002. 5 Anthony R. Black（駒沢短期大学、宗教学）（2003. 3 まで）
 - 2002. 7 小林ゆい（文化女子大学、舞踊教育学）（2003. 3 まで）
 - 2002. 9 Shana L. Fruehan（シカゴ大学、社会学）（2003. 3 まで）
 - 2002. 10 Michael Wachutka（テュービンゲン大学、歴史学）（2003. 3 まで）
 - 2002. 11 Kamayani Singh（デリー大学、政治学）（2003. 3 まで）
6. 秘書（非常勤）
 - 2002. 1 谷脇洋子就任
 - 2002. 3 谷脇洋子退職
 - 2002. 3 佐藤結就任
8. 構成員（2002年12月31日現在・ABC順）
 1. 所長 古藤友子（語学科教授、中国語・中国哲学）
 2. 所員
 - 千葉杲弘（教育学研究科大学院教授、教育学）
 - 福田秀一（比較文化研究科大学院教授、日本文学）
 - 広瀬正宜（語学科教授、日本語学）
 - 黄仁相（社会科学科助教授、経済学）
 - 石渡 茂（行政学研究科大学院教授、経済学）
 - 岩淵功一（国際関係学科助教授、国際コミュニケーション）
 - 加藤恵津子（国際関係学科助教授、比較社会・文化論）
 - 菊池秀明（社会科学科準教授、歴史学）
 - 小島康敬（社会科学科教授、歴史学）
 - 近藤洋子（保健体育科講師（課程助教授）、体育学）— 特別研究期間
 - John C. Maher（国際関係学科教授、言語学）— 特別研究期間
 - Shaun K. Malarney（国際関係学科準教授、文化人類学）
 - 那須 敬（社会科学科助教授、歴史学）
 - 新津晃一（国際関係学科教授、社会学）— 特別研究期間
 - Temario C. Rivera（国際関係学科教授、国際関係論）
 - Kenneth R. Robinson（社会科学科助教授、歴史学）
 - 佐藤豊（語学科準教授、日本語学）
 - M. William Steele（社会科学科教授、歴史学）
 - 高澤紀恵（社会科学科教授、歴史学）
 - 田中和子（国際関係学科教授、社会学）
 - Wilhelm Vosse（社会科学科助教授、政治学）
 - Richard L. Wilson（人文科学科教授、美術・考古学）
 - 山本 和（国際関係学科教授、国際金融・国際経済論）
 3. 顧問 長（武田）清子、葛西實、源了圓、魚住昌良
 4. 客員所員 原喜美、一瀬智司、稲垣滋子、中村妙子
 5. 研究員
 - Stephen G. Covell（東京大学、宗教学）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 江川由布子（トリーア大学、歴史学）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 影山礼子（関東学院大学、教育思想史）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - Sharon Kinsella（エール大学、社会学）（2002. 9. 3-2003. 3. 31）
 - 李迎紅（桜美林大学、中国文学）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 松中完二（敬愛大学、言語学）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 坂元ひろ子（一橋大学、近現代中国思想史）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - Patricia Sippel（東洋英和女学院大学、日本史）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 安田夕希子（ICU、日本思想史）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 容應莢（亜細亜大学、国際関係論）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）
 - 曾櫻（慶応義塾大学、ICU、社会学）（2002. 4. 1-2003. 3. 31）

6. 準研究員

- Simon A. Avenell (カリフォルニア大学、日本近代史) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Anthony R. Black (駒沢短期大学、宗教学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Matthew Carlsen (ハワイ大学、文化人類学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Shana L. Fruehan (シカゴ大学、社会学) (2002. 9. 1-2003. 3. 31)
香月節子 (東京農業大学、民俗学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
小林ゆい (文化女子大学、舞踏教育学) (2002. 7. 1-2003. 3. 31)
Jeffrey Maret (ハワイ大学、人類学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Jens Sagen (オーフス大学、歴史学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
坂 起世 (日本語教育) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Kamayani Singh (デリー大学、政治学) (2002. 11. 15-2003. 3. 31)
Christian W. Spang (法政大学、日本史) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
田畑幸嗣 (上智大学、考古学) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)
Michael Wachutka (チュービンゲン大学、歴史学) (2002. 10. 15-2003. 3. 31)
矢野百合子 (東京女子大学、韓国文化・比較文化) (2002. 4. 1-2003. 3. 31)

7. 研究助手

- 宮沢恵理子 (歴史学)
孫 建軍 (言語学)
高崎 恵 (人類学)
宇野 (徳田) 彩子 (歴史学)

8. 秘書 (非常勤)

- 古田みな子、岩崎高子、佐藤結